

廃案まで声あげ続けよう

戦争法案

豪雨につき
5500人

政府・与党が来週にも戦争法案の採決強行を狙う緊迫した情勢のなか、国民の力で廃案を迫るべく、総がかり行動実行委員会は9日夜、東京都内で大集会と、国会と銀座方面へのデモ行進を行いました。台風による激しい雨のなか、日比谷野外音楽堂での集会では、学生や若者、弁護士、野党4党の国会議員らが発言。「安倍台風を吹き飛ばし、希望の虹をかけよう」との叫びで、5500人（主催者発表）の参加者は大きな拍手で応えました。

↓関連動画

東京・日比谷



大雨の中、戦争法案廃案を訴える集会参加者＝9日、東京・日比谷野外音楽堂

「安全保障関連法案に反対する学生の声」を代表して、学習院大学教授の佐藤学さんがスピーチ。「安倍政権への怒りをたぎらした。ただかしの炎をもちし続けよう」と語りました。S.E.A.L.D.sの伊勢桃李さん(19)は「連日欠陥だらけの法案を通すわけにはいかない。一緒に頑張ってください」と訴えました。

東京都江戸川区の石村珠子さん(80)は来年、ひ孫が生まれるといます。「戦争のせいで飢えに苦しんだ。同じ経験をし孫にさせるわけにはいかな。憲法と民主主義を守らなければならない」

同7代田区の近藤希明さん(82)は「戦争法案の本質を見抜いたからこそ、反対の声が広がっている。まさに正念場。最後まで声をあげ廃案に追い込む」と話しました。

日本共産党の山下芳生書記局長は「全国各都府、主催者として声をあげる戦後かつてないたたかいが、大きく発展しています。戦争法案を葬り去り、国民の力で動く新しい政治をみんなの力でつくりましょう」と呼びかけ、会場は大きな拍手でつまれました。

民主党の枝野幸男幹事長は「立場の違いを乗り越え、立憲主義、民主主義を

守るためにたたかってく」と強調。社民党の橋本徹副党首、生活の党の玉城学二幹事長もあいさつしました。

実行委員会を代表して、憲法共同センターの小田川義和さんが「10日から連日、国会前行動を展開する」と行動提議しました。

9/10
5/10